

ごみ分別収集 促進広告

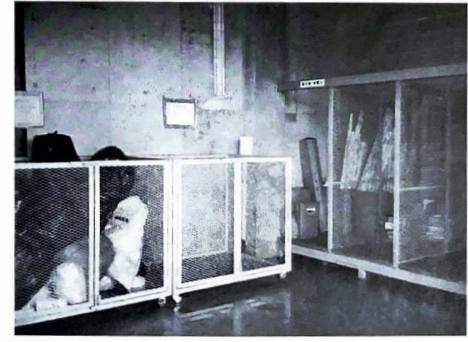
平成十一年度の総合科学部でのごみ処分費用は約百万円かかりました。ごみを徹底分別できていれば資源として利用価値があるのでもっと安くになります。地域環境、ひいては地球環境のためにも、まずごみを減らし、分別することから始めましょう。

分ければ資源！ 混ぜればごみ！

【INDEX】

- ① 総科美化子エック
総科周辺を探索してみました。
(二一ページ)
- ② ごみは天下の回りもの？
総科から排出されたごみはどこへ行くのでしょうか。
(二二・二三ページ)
- ③ 古紙の分別収集法
古紙の分別は意外と細かいようです。
(二四ページ)

〔取材協力〕
きやま商會・総合科学部用度係



総科はもっと
きれいになります。

美しい、緑あふれる総科を細かくチェック。より美しくなるために気をつけることは？ほんのちよつとのこと、総科はもっときれいになります。



Check

恐怖のマック横
これはちよつと
ひどいですね。



Check

空き缶は、リサイクルできます。
専用のゴミ箱に入れましょう。

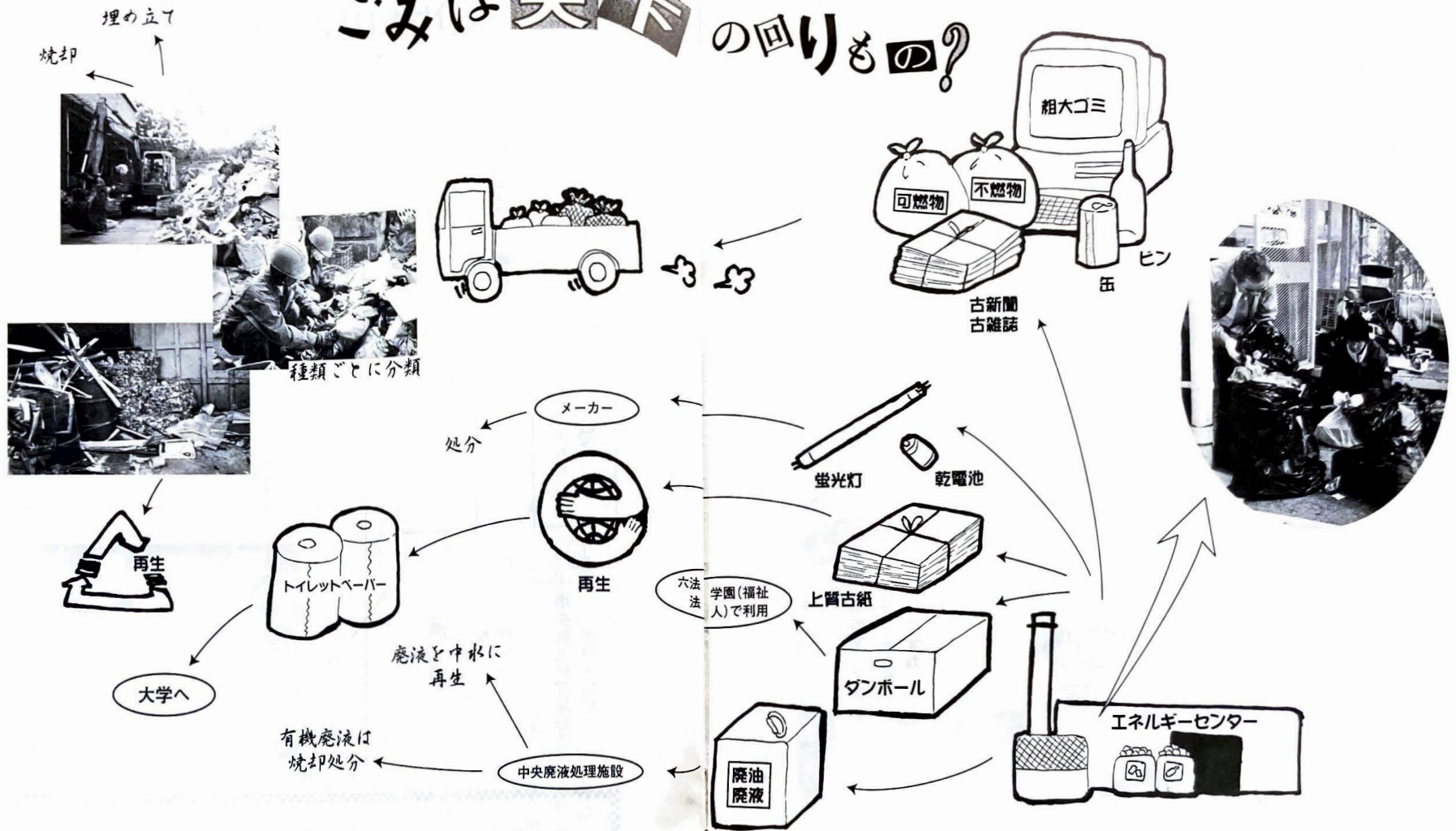
総科 check

Check

生協前のリサイクルボックス
中を見てみると・・・
結構入っています。
ちゃんと再利用
されているんですね。



ごみは天下の回りもの?



◇ごみの行く末

可燃物：委託業者が回収し、買茂環境衛生センターで焼却処分。

不燃物・ビン：委託業者が回収し、委託業者で粉砕など処理の上、委託業者で最終処分(埋め立て)。

粗大ゴミ：委託業者が回収し、委託業者で可燃物、不燃物などに分類処理した後、それぞれの処分方法によって処理。

古雑誌、古新聞：委託業者が回収し、委託業者が分類処理して、再生処理会社が回収。

カン：委託業者が回収し、委託業者で圧搾など処理の上、再生処理会社が回収。

蛍光管・乾電池：販売業者が引き取り、メーカーが最終処分。

上質古紙：大学で回収し、パルプ会社で再生後、学内

で利用(トイレtpーパー)。

段ボール：社会福祉法人(六法学園)が回収し、そこで必要な用途に利用されている。

廃油：中央廃液処理施設で回収、焼却処理。

廃液：中央廃液処理施設で中水として再生利用。ただし、有機廃液は焼却処理。

◇ゴミを隠しているだけ

大学のごみ回収を委託している「きやま商会」を訪ね、営業開発部長の小林浩二さんに話を伺った。

「何のために分別が必要なのかを学ぶ機会が必要だ。現場を実際に見る機会が少ないため、何を必要とされているのか見えにくい。現状の処理では埋め立てながらゴミを隠しているのが殆どなのに。身近に感じていないことで危機意識が低いのだろう。」

「この旅は、わしの自尊心にとって辛い決断だった。」
 とにかく頑固な死にかけジジイ、アルヴィン・ストレイトが、遠く離れた絶縁中の兄と和解するために時速8kmのトラクターに乗って、長く静かな旅に出る。

主人公のアルヴィンは、兄と会って和解するためにどんなことがあっても一人でまっすぐ進み続ける、とにかく頑固なじいさ

「ストレイトストーリー」
 (一九九八 アメリカ)
 監督 デイビット・リンチ
 主演 リチャード・ファーンズワース

この度、誠に勝手ながら映画紹介をさせていただきます。
 題して「腰抜けシネマ評論」です。
 総合科学部 平成二十一年度生 郷田 俊之
 中野 智之

腰抜けシネマ評論

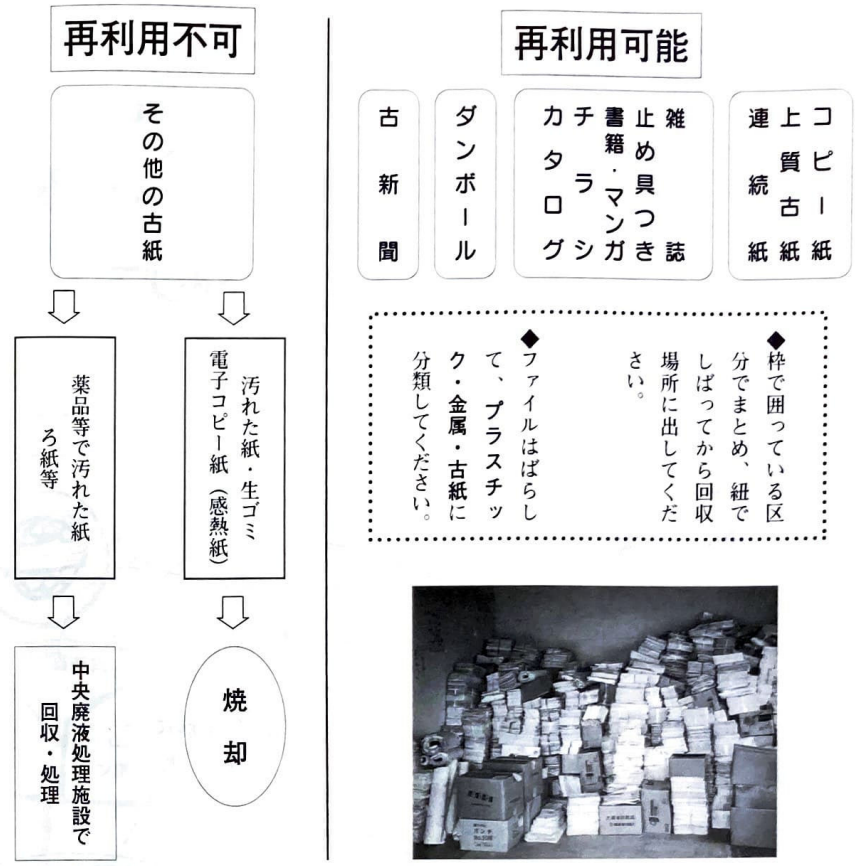
大雨にみまわれても、トラクターが故障しても、アルヴィンじいさんはひたすら頑固に進み続けます。その頑固じいさんが旅先で出会った人々に自分の人生について語っていきます。家族のこと、戦争のこと、歳をとること、色々なことを語るんですけど、そのエピソードを観るとアルヴィンじいさんについてわかってくる構成になっています。そのエピソードの一つ一つに家族の大切さや戦争の悲惨さについて、アルヴィンのちっちゃいメッセージが込められています。そのメッセージはありきたりなものなんですけど、アルヴィンじいさんのセリフには不思議な説得力があります。主人公のまっすぐな頑固さに感動を覚え、見終わった後は優しく温かい気持ちになれる、おすすめの映画です。

物語はとにかくゆっくりスローペースで進行します。普通のテンポでこの物語を撮ったら四十五分位におさまりそうな感じですが、出だしのカメラの寄りがすんごいゆっくりなんでスローモーションかと思いましたが、あの出だしで観ている人の半分はうんざりするでしょうね。観る人にこびてないってことで僕は好きなんですけど、つかみとしては最悪です。登場人物は必要最小限でわかりやすいんですけど、観たことのある俳優は一人もいません。主人公のアルヴィン役の人は昔スタントマンをしてた人だそうです。また、トウモロコシ畑を映して時間の経過をあらわしているシーンが何回かあるんですけど、そのシーンは使い回しだと思われれます。制作費も必要最小限のようです。でも、全然安っぽくないのが不思議です。

兄さんとの再開シーンはすごく良かったんです。長い旅を経ての感動の再会のはずなんですけど、兄さんの家に着いたら家の外から兄さんの名前を乱暴に呼ぶだけなんです。それで兄さんが出てきて再会するとき、アメリカ人だから抱き合ったりするのかわかるとしたら二人はほとんど会話も交わさないうえ、それがすごく自然でなんかかっこよかったです。わざとらしくないし、無理やり感動させようとしていたな。観てよかったです。良い映画でした。



分ければ資源 古紙分類表



◆最後に…
 小林さんは次のようにも語ってくれた。
 「大学のごみは量に大きな変化はないものの、分別についてはまだ徹底されていない。例えば、OHP用のシートを一緒に挟んで古紙回収に出していたり、再生できる雑誌類を可燃物として出していたり。このようなかみはもう一度分別が必要になるので、二度手間になってしまふ。実験で使ったビーカーや薬品容器を、薬品がついたまま出していたりもする。作業員は何が入っているか分からないので不安に感じている。」
 そこで今回は古紙の分別方法を掲載します。至る所に貼ってありますが、確認してください。

この企画が少しでもごみ処理問題に関心を持ってもらう契機になることを祈って。
 (飛翔編集委員)

教育、しつけから文化を考える 〜オーストラリア・アボリジニの親子〜

窪田幸子

1 アボリジニの子育て

アボリジニの家族は一般に大家族である。夫婦は一夫多妻で、二、三人の妻が同じ家の中で暮らすことが多い。生まれてくる子どもの数も多い。また、子どもたちは大人になつてからも親の家に住み、結婚して子どもが生まれても暮らすため、一世帯にいる子どもの数も必然的に多いことになる。

アボリジニの子どもの扱いをみていると、とにかく徹底的に甘い。子どもはほとんど禁止されるということを経験しない。子どもたちが厳しくなにかを制止されるのは、彼らの社会で最も基本的な規則である親族関係にはずれる行動をとったときだけである。親族関係によって禁忌関係にある人に、子どもが近づいたりする、大人たちは声をあらせて厳しくしかる。しかし、そんなことはその時だけで、

ここでは大声で主張し、泣きわめいた子どもが勝ちである。子どもが泣きわめければ、すぐその子は抱き寄せられ、慰められ、その思いがかなえられる。こうした大人の態度の結果として、一般に子どもたちは非常にわがままに育つ。

事例1

筆者が家族にしてみらつていいるA家の第二婦人には、一八九六年の段階で六才だった。筆者の妹として大変なついていたが、甘やかされて育つた大変なわがまま娘であった。調査中のある時、Tは筆者の制止にもかかわらず、タバコを自分で火をつけ、吸う真似事をした。身体が小さく、喘息気味なTの健康状態を気にしていた筆者は、彼女の手をうち、タバコを地面にたたき落とした。子どもがタバコを吸うなんて、とんでもないこ

と、と現地語で叱りつけながら。Tは火がついたように泣き出した。泣いている彼女にタバコは決して吸ってはいいない、死んでしまふよ、と繰り返して論じた。この時、第一夫人も第二夫人もすぐそばにいて一部始終を見ていたが、そう、タバコはいけない、と言っただけで、筆者を非難することはなかった。ところがその日の午後から、翌日にかけて、村中の人々から「叱つたんだって?」「ぶったんだって?」と行く先々で尋ねられることとなった。そして、自分の行為がいかに珍しいことであつたのかを思い知らされた。

この事例が示しているように、親たちは子どもの行動を全くといってよいほど規制しない。それどころか、トイレ、トトレニング、食事、着衣などのもつと基本的なことですら、この社会では親は

教育しない。むしろ、母親をはじめとする子どもをとりまく女性の大人たちは、子どもたちに完全な受容を示すのである。

子どもたちは自分で動き回るようになる。と次第に母親べつたりの生活をはなれ、4から五才の年齢幅の子どもの集団の一員となつていく。いわゆる年齢集団と呼べるような集まりである。子どもたちはここで、自分よりも年長の子どもたちの行動をまねることで、生活習慣などの必要なことがらを身につけてゆくのである。そこでおこなわれるのは教育ではなく、あくまでも子ども側の「見習う」ことによつて体得していく学びの形である。

このような「見習う」学び方は、実は子どもだけの学習の基本にある。儀礼の中での、踊りにしても歌にしても人々は細かく指示をして若者に

「教える」ことはしない。踊ること、歌うこと、そして儀礼への参加そのものすら強制されることはない。若者たちは自分の意志によつて、年長者を見て覚え、できると考えたときに踊り、歌いはじめる。ただ、甘やかすだけで、わがままで横暴な子どもを育ててしまふかに見えるアボリジニの子どもへの対応は、このように考えると自己主張がはっきりとでき、自己の主体性を理解できる強いパーソナリティを育てることになつてい

2 ほめない教育

アボリジニの学びにかかわつて、特徴的な点がもう一点ある。それは親たちが子どもたちの「学ぶ態度」をほめたり、奨励したりしないことである。

事例2

Tの弟で三才のEと、第一夫人の孫の九才になるRが遊んでいる。Rがトイレのためにプッシュに行く、Eも後を追う、Rの隣にしゃがんだ。そして木陰でくつろいで女性

たちとトランプをしていて母親の元へ戻つて戻つて来、トイレに行つて来た、と誇らしげに報告した。それに対して母親はほとんど興味を示さず、冷淡な態度だった。しかしEは報告したことだけに満足したようで、再び遊びに戻つていった。

日本であればこのとき、母親は子どもを一生懸命に賞賛し、何度も褒め称えるだろう。アボリジニの子どもたちは、むしろほめられることになれぬ。私は私が特定の子どもをほめると、ほかの子どもたちはその子を冷やかす、子どもはともども恥ずかしそうに、不愉快そうな顔さえる。この町の小学校の白人教員は、クラスでよくできたアボリジニの子どもをみんなの前でほめると、学校に来なくなる。これがしばしばあると嘆く。学校で開催される運動大会では、最終日に表彰式が行われ、メダルが授与される。ところが、賞を受ける子どもたちは、みんな恥ずかしそうに下を向き、両手で顔を隠すようにして表彰台にあがるのである。彼らの社会では、基本的に

「競争」という概念がそぐわれない。競争というのは、全員が努力すれば、ある一定のレベルに達することができるといふ理解の上になりたつていて、その努力の程度を競い合う競争が成立する。ところが、アボリジニ社会では能力や才能は、各々の好みにもとづいて発揮されるべきものであり、同年の者であっても、必ずしも同じことについて同じレベルに達していることを期待されない社会なのである。つまり、たとえ同じ年齢、同じ性別であっても、ある者は儀礼の踊りが非常にうまく、ある者は歌をうたえ、ある者は絵だけがうまく、それが当たり前とされる社会である。そして、さらに重要なのは、踊りをおどらない者、絵を描かない者点である。

長老と呼ばれる男たちの中にも、神話の知識をあまり持たない者がいる。しかし、アボリジニ社会ではそのことによってその男の地位は低くなるわけでも、社会的に尊敬されないわけでもない。一つの

出自集団のなかで長老と呼ばれる複数の男性たちは、それぞれが各々の得意分野を持ち、一人だけの突出した権力者は存在しない。唯一あるとすればそれは年齢による序列だけである。

日本社会では、決まった方向に子どもをのぼせようとするからこそ、特定の場面で叱るのである。アボリジニ社会では、親の役割は子どもをある方向に規定することではなく、自由に力強く、主体的に生きることにあるのだ。そして、子どもを社会的な存在にする役割は、親個人ではなく、成人儀礼やそのほかの儀礼的ななかで、多くの大人が果たしてゆくのである。



中国地域

インターンシップ 突撃 インタビュー!!

みなさん、「中国地域インターンシップ」という制度を知っていますか？

「中国地域インターンシップ」とは、夏休み中に二週間から一ヶ月の間、企業研修ができる制度で平成十一年度から始まりました。現在、総合科学部の学生は二年生時にこの制度を利用できます。研修先は一般企業に限らず、政府機関・地方自治体・公益法人など多岐にわたります。

この制度を利用するには

まず学部の教務担当係で「インターンシップ応募票」を受け取り、インターネット (<http://www.chugoku-internship.gr.jp>) を使って受け入れてくれる企業を検索します。第一希望から第三希望までを決定したら、応募票に必要な事項を記入します。そして、指導教官(チューター)の認印を受けた後、学部の教務担当係

へ提出します。一ヶ月〜二ヶ月すると、研修企業が決定します。

「インターンシップ」は海外でも行われていますし、個人が国内企業で研修することもできますが、費用が数十万円もかかってしまうこともあります。その点、この制度ではほとんど費用がかかりません。企業が交通費を出してくれることもあります。

聞いてみました!

今回は実際にインターンシップを経験された、橋口綾子さん、田中寿美子さん、森國智恵さんの三人にお話を伺いました。

(文責：村田圭太郎)



ファイル1

ファイル2

ファイル3

中国通商産業局

エネルギー対策課

研修期間：H12. 8. 21~9. 1

橋口綾子さん

社会科学コース3年

橋口さんの将来の夢はマスコミ関係に就職することだ。彼女は自分のモチベーションを高めるためにいろいろな経験をしてみたいとインターンシップに参加したという。

彼女が所属したのは、通産局エネルギー対策課。この仕事は京都会議で設定された温室効果ガスの削減目標に基づき、工場などの省エネや新エネルギー導入を推進することだ。与えられた仕事は、主に書類整理などの事務処理。他に秋祭りの企画会議や工場での現地調査・省エネ会議にも参加した。エネルギー対策に真剣に取り組んでいる人々の働く姿を見て視野が広がっ

たという。これらの経験を通して感じたことを語ってくれた。

「まず苦労したのは敬語がうまく使えないことです。私たち学生は普段敬語を使い慣れていない分、すぐに出てこないことがあります。これは社会に出ると恥ずかしいことだと感じました。それから、社会人と学生との大きな差を感じました。日本や世界の経済状態や政治などの常識を知っていることは、社会人にとっては当たり前なことだから」

インターンシップから帰ってからは、新聞を情報源とするようになり、常に正しい日本語を心がけるようにしている。また、エネルギー消費にも気を配るようにしているという。



なステップとなったのだ。「インターンシップにはぜひ参加してください。『失敗は成功のもと』と聞き直って、失敗を恐れず、挑戦と失敗を繰り返して、将来の夢に近づいていったらいいと思います。総合科学部の人は特に将来が決まっていないことが多いから、『とりあえず挑戦』という気持ちで、色々やってみたらいいと思いますよ」

(文責：松岡由美子)

ファイル1

ファイル2

ファイル3

田中寿美子さん

社会科学研究所コース4年

日本貿易振興会山口貿易 情報センターに研修

研修期間：H11. 8. 16~8. 27

一年生の夏休みを
棒に振ってしまった

「・・・という後悔もあり「何かやってみよう！」と考えインターンシップに参加した田中さん。

「社会人の責任の重さを感じ、アルバイトなどとは全然違う」そんな仕事は九時五時の二週間。新聞クリッピング、郵便発送のための雑務、ミーティングに関するレポート提出など大変で、「家に帰ると疲れてアイロンもかけられなかった」と田中さんは苦笑

する。元々、経済関係に興味があり、公務員も考えていたので半官半民の企業を選んだ。が、振り返ってみると



て仕事が上手く出来ず、全てが中途半端になって後悔した」だから、「小さい所（中小企業など）の方が仕事を掴みやすいかも」と後輩へのアドバイスももらす。

この体験を通して得たものは「自分に合わない仕事が見つかった」こと。「とにかく、考えるきっかけになった」と強調する。現在は

「大企業を選んで気後れした。実際の仕事が期待した実務でなく雑務だった上に、緊張し

（文責：腕 侑佳）

ファイル1

ファイル2

ファイル3

森國智恵子さん

自然環境研究コース4年

(株)アサヒテクノリサーチに研修

研修期間：H11. 9. 16~9. 29

「現場」

で働いている人の姿を見られたのがよかった」と森國さんは語る。高校生のときから興味を持っていた仕事を、二年生の夏にインターンとして体験した。「分析機器を使って、水や土壌中の化学物質含有量を測定するんです」と仕事内容を嬉しそうに話す。環境問題が深刻

化している現在、より重要な仕事になっている。「でも本当に体験したい仕事ではないかも」と体験直後は思った。その後就職活動で将来のことを考えているうちに、「やっぱり良いかもしれない」と思うようになった。現在は考慮に入れつつ、他の職種も探している。

インターンシップは職業を選ぶときのきっかけにしようとして参加した。始発の電車に乗って大竹まで片道約二時間の通勤を二週間続けた。

「交通費が出なかったら（参加するかどうか）ちょっと

と考えたかも」実

際は時給七百円のバイト料までもらえて、「ラッキー!!」仕事は楽しく、「化学好きに

はお薦めです！」けれど学生として一線を引かれて見られたのが辛かった。「社会人はやっぱりきびきびしていました」後輩に一言。「業種は一つしか見られないけど、体験するだけで違う。就職活動にも役立つし、面白いから参加したらいいと思う」

（文責：竹田 慶）



吉田純子 研究室

制作科学講座 教授 (A714)

研究内容は？

アメリカの児童文学、例えば『ライ麦畑でつかまえて』など思春期文学も交え、あまりジャンルにこだわらず、文化論的に研究しています。

なぜこの研究を？

少ない言葉制限の中で、人生の複雑さを表現する児童文学に惹かれましたね。また、思春期の問題は誰にでも共感できる、いつまでも現在形のものだと思っていますから。私は今でも自分が思春期だと思っています。そういう意味で思春期という難しい時期にとっても興味があります。

思春期時代は？

抑圧された意識はなく、自由によっていましたね。まだ貧しい時代だったので、あまり遅くまで勉強していると電気代もつたいないと行って親に電気を消されたりしまし

実現しましたか？

実はしました。ある小説に非常に感銘を受けて、「これは人の本を研究している場合じゃない、自分で書かなきゃ！」と思い、児童向けの本を4冊出しています。(編)どうぞ読んでみて下さい)書くことはとても好きなんです。

(取材：麗 侑佳・渡辺理紗)

誇大妄想ノススメ

最近の学生さんの髪の色は、日本人か外国人かわからなくなってすごく良いことです。黒色以外の髪も特別視されなくなりました。でもそれだけで個性を出していると思わず、内面からにじみ出る個性を磨いて自分を大事にして欲しいですね。自分の可能性を信じて「自分は何か大きなことをするんだ！」と、いつまでも思いつづけてください。

皆さん誇大妄想を楽しみましょう!!



市川浩研究室

(技術史)

社会環境研究講座A805

助教授

Q 先生は何の研究をしているのですか？

大きくわけて二つあります。一つは旧ソ連の技術展開についてです。産業技術についての研究は九六年に終了しているのですが、今は軍事技術の形成史をしています。もう一つはGHQの資料による、大戦中と大戦後の日本の技術政策の研究をしています。

Q 何故そのテーマに興味をもったのですか？

七〇年代に公害や核兵器など科学技術の問題が深刻になって、これらの問題の重要性を感じたからです。そして「この人につきたい」と思わせる先生の影響というものもありました。

Q 学生時代にしたこと

大学時代はロシア語をやっていました。あと、社会科学というものについて勉強したかったのですが、大学の授業になかったので、サークルに入って社会科学の勉強をしました。

Q これからの夢は？

一番は子供の成長です。そして家庭の幸せ。私は今、四十三歳なのですが、五〇になるまでに本を出したいです。研究費をもらってロシアで生の資料に触れ、「冷戦と技術」をテーマに一冊の本をまとめたい。また、「技術の社会学」をどのようか、で大学や高専などの教育機関で広げていくか、を体系化したものをつくっていききたいですね。

Q 学生に一言

タコつぼ化している、と思います。専門以外で関心を持たなくなっている気がします。学生さんには、多様な問題関心を持ってほしいです。そして自分の興味のあるところをもつとやり、それを学問にかえすようにしてほしい。(総合科学部について)ミニ文学部、ミニ法学部などの集まりになってきているような感じがします。総科に来た学生には「〇〇学」ではないものをやりにきてほしいです。

取材 北岡未紗・近藤由紀

宇田川眞行 研究室

物質科学講座 教授 (C119)

Q 研究内容を教えてください。

レーザーラマン散乱を用いた実験的研究をしています。レーザーラマン散乱を知っている人は皆無と違いますので、簡単に紹介いたします。これは光散乱(ひかりさんらんと読む)の一種です。光散乱は特別なものではなくて、日常でも見られます。例えば、朝や夕方の太陽が赤っぽく見えることはみなさん知っていると思いますが、これは太陽から来る白い光(赤から紫までの全ての色の光を持っていて大気中の気体分子によって散乱されること)によります。

しかし、ラマン散乱では、散乱された光の波長がわずかですが変化するんです。この変化は、光が物質によって散乱される時に、物質の中のイオンや分子の運動状態を変化することによって起こります。つまり、波長が変化した光を観測すると、原子や分子の運動状態や、イオンとイオンの間の結合の程度や原子間距離などが分かることとなります。ですから、物質の現象を、原子やイオンの立場から解明できることとなります。なお、この方法はただレーザーを物質に当てただけですが、どんな物質でも測定できることが特徴です。

つまり、色(波長)ことによって散乱される割合が違い、青い光(波長が短い)の方が赤い光(波長が長い)に比べて五倍ほど強く散乱されるので、私たちの目に届く青い光の割合が減り、太陽が赤っぽくなります。この現象はレイリー散乱と呼ばれるもので、散乱された光の波長は変化しません。

現在の研究は、高温超伝導体、磁性体、水素吸蔵グラフアイトなど、現象が面白い(かなり主観的)と思うものを行っています。ただ、内容の説明には紙面が不十分なので、興味ある方は研究室に来て下さい。それから、現在までの成果は、研究室の荻田助手を始め研究室の学生さん方の協力のためものです。

Q この研究を始められたきっかけは何ですか？

研究のきっかけと言えるかどうかは分かりませんが...

現在行っている研究の物質とは違いますが、卒論の時に磁性体のラマン散乱の研究を行って、磁石にくっつく性質(磁性)と原子の運動に相関があることをたまたま見つけました。そのとき、原子運動がこんなに簡単に見えるものなのかと思う、修士でまともなという思いで大学院に行きました。そうしたら、研究というのは1種の中毒みたいなもので、何か分かったら、新しい問題が出てきて...そうしてたら大学教官になっていました。だから、私の場合には対象とする現象や物質は異なるものの、レーザー光散乱を主な武器として研究をしています。

Q ところで、先生の趣味は何ですか？

月並みですが、クラシック音楽を聴くことと、映画鑑賞。スポーツも好きです。大学四年からオーバードクターまでサッカーをしていました。最近ラグビーが面白いと知ったのですが、体がついていけないのでできません。



前列真ん中が宇田川先生

Q これからはどのような研究をされるのですか？

これまでの研究は続けるとは思います。しかし、(現在はまだ夢ですが)新たな光の研究を行いたいと思っています。光だけでなく波すべてについて当てはまりますが、レンズを使用している限り、光の波長程度までしか焦点で絞れません。可視光ですと0.5マイクロメートル程度になります。しかし、近接場光と言うものを用いると、もっと小さな大きさ(0.008マイクロメートル)まで出来ます。従って、これを用いて光散乱を行うと、今後ますます重要となるナノメートル(0.001マイクロメートル)程度、領域での物質の性質が手に取るように分かることとなります。また、更にこの光を使うとイオンや原子のピンセットとなる可能性もあり、光を使ったナノスケールの物質作製の道も開かれていますので、イオンや原子を積み木みたいに扱ってみたいと思っています。

学生さんに聞きました！

編：宇田川先生ってどんな先生だと思われませんか？

学：一言で言えば熱血漢！

編：確かに！でもそこが先生のイイところ。

研究内容は？

大気や川の水の中の微量の重金属を測定し、大気や水がどこからきたのか、どのように循環しているのかを調べています。一つは、雨や雪の中の鉛の安定同位体は産地によって、同位体比が異なるため、発生した場所を特定することで、大気の流れがわかります。これによって、越境汚染の状況を提示することもできます。もう一つは、海洋中で光化学反応によって川から流れてきた有機物がどのように分解したり、また、他の物質が生成するかについて研究しています。

今の研究を始められたきっかけは？

もともと大学時代には、半導体物理を勉強していましたが、大学院に入ってから、有機材料を用いた太陽電池の研究をしていました。その後、現在の研究室の助手になり、微量元素分析や海洋中の光化学の研究をしています。大学院時代から、現在に至るまで、光をテーマに研究しています。

これからどんな研究をしていきたいですか？

海洋中の光化学反応の研究と環境中微量元素の測定の本柱でやっていきたいと思っています。また、環境問題に自分のテクニックを生かせる場があればいいと思います。

どんなフィールドワークを行っていますか？

一年に二回海に出ます。そこでサンプルを集めます。生物生産学部の練習船(豊潮丸)に乗って、瀬戸内海が主ですが、外洋に出ることもあります。最近では、ため池の中の堆積物の調査をします。賀茂台地には、昔からため池が多く、歴史的古文書も多く残っているのです。それを専門にする先生や、年代を特定する先生など様々な分野の色々な学生の先生方と協力して、調査を行います。黒瀬川の水質調査も行う予定です。

竹田一彦 研究室

生物圏科学研究科
環境循環系制御学専攻
基幹講座
助教授
(B507)



船の様子はどうですか？

瀬戸内海の際は、準備や調査・試料分析で結構忙しいです。お酒は飲んでますけどね(笑)。外洋では、計測装置や採水器を海中に下ろすだけでもすごく時間がかかりますから、テレビを見たりします。

趣味は何ですか？

球技は駄目ですが、高校時代に陸上部だったので、マラソンをします。フェニックス駅伝にはいつも出ています。音楽ではクラシックをよく聴きますが、ここ一年ほどはタンゴにはまっています。それから、パソコンも趣味にはいるんですかねえ。日本酒は飲めませんが、ビールを飲みます。新製品は、つい飲んでしまうんですよ。

学生に一言

遊ぶのも勉強するのも一生懸命に！何もせずに、中途半端に時間を過ごすのは、もったいないですよ。

研究室の雰囲気は？

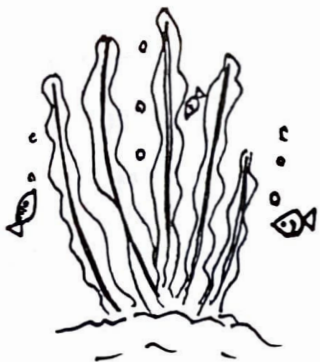
先生..人数は結構多く、十人以上います。物理や生物出身の人や、文系入試の学生など、バックグラウンドは様々ですね。

学生..どうでもいい話を長々とやっているのを楽しんでいますね。先生はすごくおしゃべりです。

先生..でも、よく怒るよねえ。学生..最近はどうでもないのですよね。

先生..最近は何も怒らないけど...
編集員..私、教ゼミで怒られたことないのに...

(取材・木島静香 近藤由紀
島田基世)





フンク・カロリン 研究室

広域文化研究講座 (A726)

1. 先生の研究内容は？

専門は地理学で、特に観光地理学をやっています。ここ何年かは主に日本の地方における観光開発と地域のつながりについて調べています。今のフィールドは主に瀬戸内海です。その他では、ドイツでの農村での休暇やイギリス研究などもしています。さらに、環境にも関心があるので、二つを結び付けて、ドイツの環境を中心にした都市計画について考えたりします。「環境にやさしい観光」というテーマもとっています。

3. これからの目標

自分のための研究というより、日本での研究とドイツの研究を結びつけて情報交換ができたらいなと思っています。なぜなら、特に環境面では何を重視するかが国によってだいぶ違うからです。

2. 研究を始めたきっかけ

学生時代は北アイルランドの経済地理をやっていました。大学を出るまでは、日本とは全く無関係でしたが、仕事をする前に一年間外国へ行ってみようと思って、たまたま出身地のフライブルク市と愛媛の松山市が姉妹都市だったこともあったし、また合気道もやっていたこともあって、日本にきました。それから、日本をフィールドにしています。

5. 学生に一言！

できるだけ広い範囲で世界をみてほしい。だから大学のうちに日本をぜひ一度出てよ。それから日本を見るのが大事だと思います。ドイツの学生はのんびりしていて危機感が無いと思います。自分のテーマとかが色々あると思うけど、もう少し興味を広げて、自分で考える必要があると思います。

(取材・滝波稚子・麗侑佳)

今里智晃研究室

言語文化研究講座 教授 (A414)



Gram loquitur, dia vera docet,
rhet verba colorat
～しっかりと言葉を学んで、しっかりとした言葉を使えるようになってほしい～

研究内容は？

今は、英語の語彙について研究しています。どんな語彙が英語に入ってきて、どんな語彙が削られていったかというのを歴史的に比較・検討しています。

研究を始めたきっかけは？

大学院までは、英語の音韻の研究をしていて、辞書を直接の研究対象にはしていませんでした。直接のきっかけは、学校の先生になってから辞書に関する本を書いたことです。今の研究はその内容が、ちよつとシフトした感じですね。

これからの研究の目的は？

最終的には、小さい辞書でもいいから、自分で責任者になって作ってみたいというのがあります。また、中型くらいの規模の辞書であれば仲間と一緒に作りたいですね。そ

の仲間とは、辞書を作ろうというところで勉強会をずっと続けています。

言語文化科学プログラムへ進む生徒は、短くてもいいから、海外へ行く体験をした方がいいと聞くのですが？

これからはもちろんそうですね。言語文化科学プログラムへ進む人は、実際に現地を見てきて欲しいと思います。若い時に、自分の目で他の国を見ることによって、非常に視野が広がりますしね。

学生に対して何か一言！

単に自由に会話ができるという意味での外国語という枠を越えて、その言語の向こうにある文化とか歴史などを積極的に学んで欲しいですね。それによって母国語である日本語についても見えてくるものがあると思いますよ。

あと、本をたくさん読んで欲しいですね。徹底的に本を

読んで、いま役に立つとは限らなくても、読んだ本のエキスが一部分でも蓄積されていって、いつか何らかの時に役に立つと思いますから。最後に、一番言いたい事は、将来、社会に出て学ぶことが好きな人間であって欲しいということですね。

(取材・滝波和歌子 木島静香)

Learning to learn

磨井祥夫 研究室

行動科学講座 助教授 (A109)

Q 研究内容を教えてください

スポーツや体の仕組み、特に運動しているときどうなるかを調べています。例えば、中・長距離選手が有酸素運動と無酸素運動をどのような割合で行っているか、またそれぞれからエネルギーを得る能力を実験などから求めます。

Q 学生時代はどのように過ごされましたか？

サッカー部に所属してクラブ中心の生活をしていましたが、後は普通の大学生でした。適度に遊び、適度に学ぶという感じでした。

Q どのようなきっかけでスポーツ科学を始めたのですか？

大学一年の時、サッカー部の先輩がスポーツ科学を専攻していて、実験の被験者をしました。そこで初めて興味を持って、この分野を選択したんです。



一番左が磨井先生

Q これからはどのような研究をされるのでしょうか？

研究は突き詰めると、どの分野でもミクロな研究になることが多いですが、私はこれからも、人間の体全体を対象として研究を進めていきたいと思っています。

Q 総科に求めることは何ですか？

今、絵を描けたらいいなと思っているんです。人のブレアの動作を絵で描けると伝わりやすいから。もし総科に実用的な授業があれば出席したいですね。

Q 学生に一言お願いします。

今の学生は少し前の学生に比べると面倒なことをしなくなっただけで、以前の学生のほうが手間を惜しまずに行っていたと思います。

Q 先生の気晴らしは何ですか？

やはりスポーツをするんですかね。スポーツ実習の授業で自分も体を動かしたり、学外のサークルの人達とバウンドテニスをして汗を流しています。趣味は読書やクラシック鑑賞。でもクラシックは一曲が長いので、ゆったりと聞くことは当分やってませんね。後はボードゲームが好きです。決められたルールの中で相手と向かい合っただけで色々な情報が目の前にあるというのがとても好きです。その中で一番好きなのは将棋です。

Q 学生さん、先生はどんな方ですか？

うーん、何て言うたらいいんだろう…。一言では言えません。パソコンより正確で賢いんですね。ただ何を考えているのかはよく分かりません。先生って感じではなくて、ギャグの好きな変なおじさんという感じなので、初めて会った人にはついていけないです。でも優しく、質問には真面目に答えてくれますよ。

勉強だけでなく、全ての面において充実した生活を送って欲しいです。一つ一つ集中して、充実しているときは意外と色んなことができたりするもの。毎年毎年を最も充実している一年にして積み重ねることができたら素晴らしいですよ。

井鷲裕司 研究室

自然環境科学講座 助教授
(C416)



真ん中が井鷲先生

研究内容は？

植物の群落がどのように維持されているのかということの研究してきました。例えば、群落レベルでの物質の動きを測ったり、遺伝マーカーを用いて、受粉や種子散布による遺伝子の流れを解析したりしてきました。

現在、人間の活動によって生物が大変な勢いで絶滅しています。

例えば、日本の植物では、二割もの種が絶滅のおそれがあるといわれています。このような状況の中で生物の保全策を考えることも研究テーマの一つです。



西条周辺の植物の状態はどうですか？

ここはとても面白い場所です。大学に来て半年間で、環境省が指定している絶滅危惧種を二〇種類ほど西条盆地内で学生と一緒に見つけました。いずれも、大学の研究室から車で一〇分以内のところですよ！生物の保全を研究する上では大変いいフィールドです。

この研究をしようと思ったきっかけは？

大学、大学院の時には、生物の共生関係について、地衣類を材料に研究していました。フィールドで観察し、サンプルを採集し、研究室で詳しく調べるといって過程はとも面白く、肌合っていたといえます。フィールドを歩き回れば、多少なりとも何らかの発見があるものですし、室内では得られない活力を心身ともに得ることが出来ます。

就職後は、森林の研究を行うようになり、その中で保全に興味を持つようになりました。研究手法は何度か変わりましたが、フィールドと実験室を行き来するというスタイルは変わっていません。



これからのような研究を していきたいですか？

しばらくは、遺伝マーカーを用いて植物の生態を調べていきたいと思っています。遺伝マーカーを通してみると、これまで誰も見たことがない、報告もされていない、といった生態現象が次々と出てきて興味も尽きません。一人の力では幅広い研究はできないので、学生たちと一緒に、様々な生物を対象に研究を行い、生態系の中で、いろいろな生き方をしている生物全体を保全できるような研究をしたいと思っています。

広大、特に総科についてどう 思いますか？

大学も学級崩壊？といったことを聞いていて少し心配していたのですが、そんなことはなくて、学生は授業を静かに、熱心に聞いてくれていきます。

総科については、あるプロジェクトを組もうとした時に、様々な分野の研究者がそろっていて、いろいろ助言をいただいたりして、幅の広い所だと思っています。

学生に一言お願いします！

大学時代はたくさんさんの自由になる時間があります。質問に行けば、(たぶん)喜んで答えてくれる先生方もいます。広くて落ち着いた図書館もあ

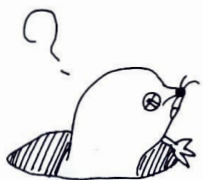
趣味は何ですか？

ります。静かな環境もあります。これらは社会人になると、なかなか得られないものばかりですから、ぜひ、うまく活用して欲しいと思います。

学生の頃は、オフロードのバイクに乗って、細い山道に入り、それから先は歩いて物思いにふけったり、自然観察や植物採集、写真撮影などをしていました。就職後は、こういったことを趣味として行うことは少なかったのですが、大学に来てから、仕事からみでフィールドを歩いていると、興味深い植物が次々と現れてきて、これらへの情熱が再び大爆発(笑)、といった感じですよ。

学生さんに聞きました。 先生ってどんな人？

面白い。
若い！コンパとかにもやつてきそうな先生(笑)。



(取材・近藤由紀 木島静香)